

第3章 まちづくりの目標と方針

3 - 1 . まちづくりの目標と将来像

3 - 2 . テーマ別まちづくりの方針

テーマ1 . 住環境・市街地整備の方針

- 方針1 密集市街地の住環境改善
- 方針2 地区の拠点となる施設の整備
- 方針3 後背住宅地との調和のとれた地区幹線道路沿道の街並み誘導
- 方針4 良好な地域環境を踏まえた市街地の形成

テーマ2 . 道路・交通環境整備の方針

- 方針1 地区の骨格となる東西道路の整備
- 方針2 狭あい道路の拡幅
- 方針3 安全・快適な歩道の整備
- 方針4 地区の回遊性・利便性・安全性を高める施設の整備・改善
- 方針5 金沢文庫駅周辺における福祉のまちづくりの推進
- 方針6 地域住民と行政との協働による道路・交通環境の改善

テーマ3 . 水・緑・歴史資源整備の方針

- 方針1 地域資源の地域住民への周知
- 方針2 地域資源の保全・創出
- 方針3 地域資源の維持管理
- 方針4 回遊散策ルート of 整備
- 方針5 地域資源の情報発信

第3章 まちづくりの目標と方針

3 - 1 . まちづくりの目標と将来像

これまでに示された金沢文庫駅東側地区の特性と課題から、まちづくりの目標を以下のように設定します。

四季の緑と潮の音 安心と歴史のまちかど

鎌倉時代からの歴史的資源と景勝地として、金沢文庫駅東側地区を見守り続けてきた海や山の緑の自然資源とともに、日常生活の利便性・安全性が高く災害に強い、誰もが安心して生活できるまちをめざします。

具体的には、

まちづくりの目標

目標1：災害への備えを整えた安全に暮らせるまち

～ 火災や地震などに対する備えや支えあいの仕組みづくりと、地区の特性を踏まえた市街地の適切な誘導規制を図り、安全性の高い居住環境を整備していきます～

目標2：歩行者にやさしいバリアフリー環境の充実を進めるまち

～ 子どもからお年寄りまで多世代が安心して生活できる、歩行者を最優先とした道路や施設環境を整備していきます～

目標3：海・山・史跡 地域資源を大切に作るまち

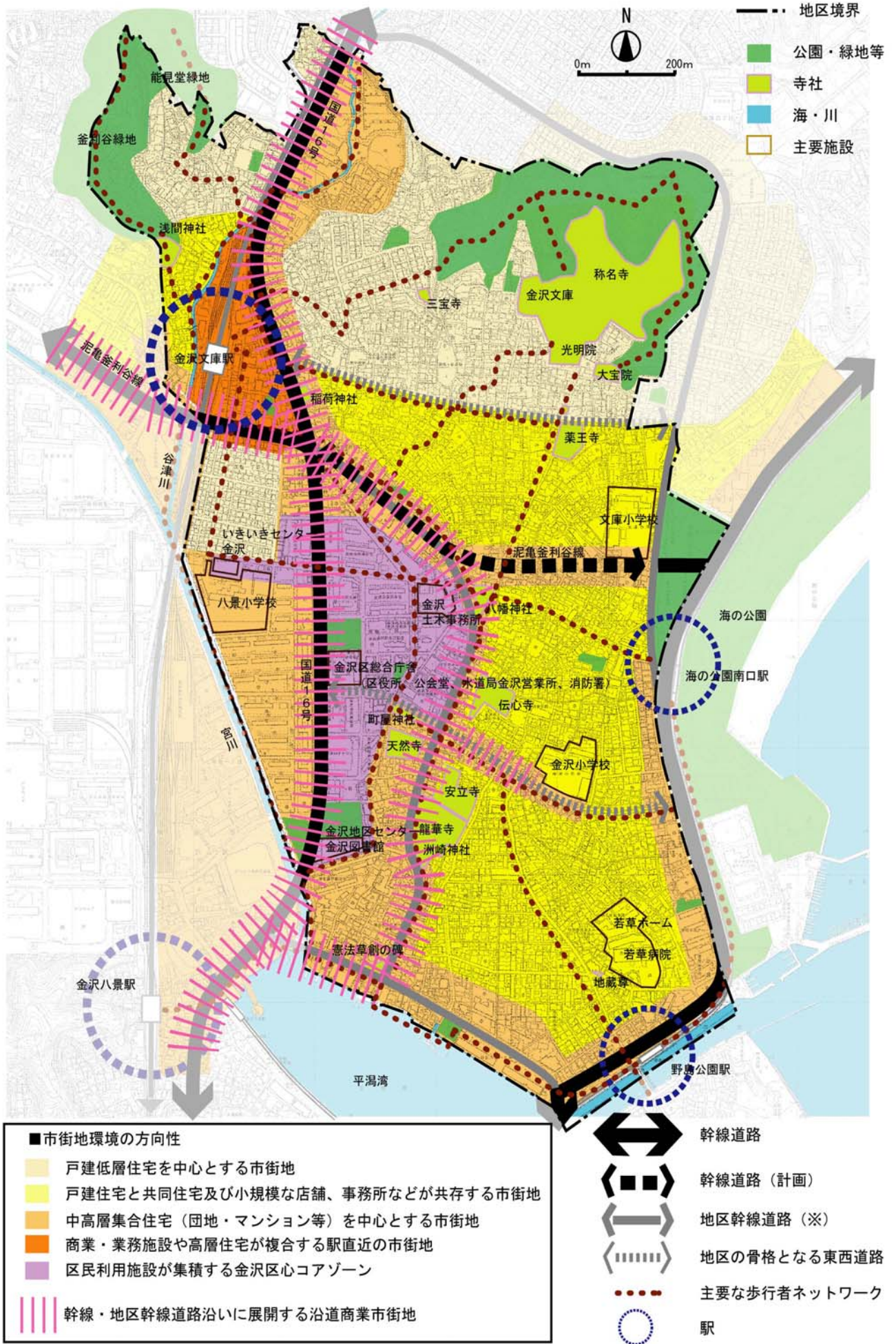
～ 古くから商業・観光都市として発展してきた金沢文庫駅東側地区の歴史と文化、自然環境を保全・活用し、発信していきます～

の形成をめざします。

その指標として、「金沢区プラン」や、これまでにおこなわれた地域住民と行政との意見交換などを踏まえて形作られてきた金沢文庫駅東側地区の“まちの将来像”を次のように整理します。

この“まちの将来像”を実現するため、テーマ別に区分けした3つの方針「住環境・市街地」「道路・交通環境」「水・緑・歴史資源」に沿ってまちづくりを進めます。

図3-1. まちの将来像

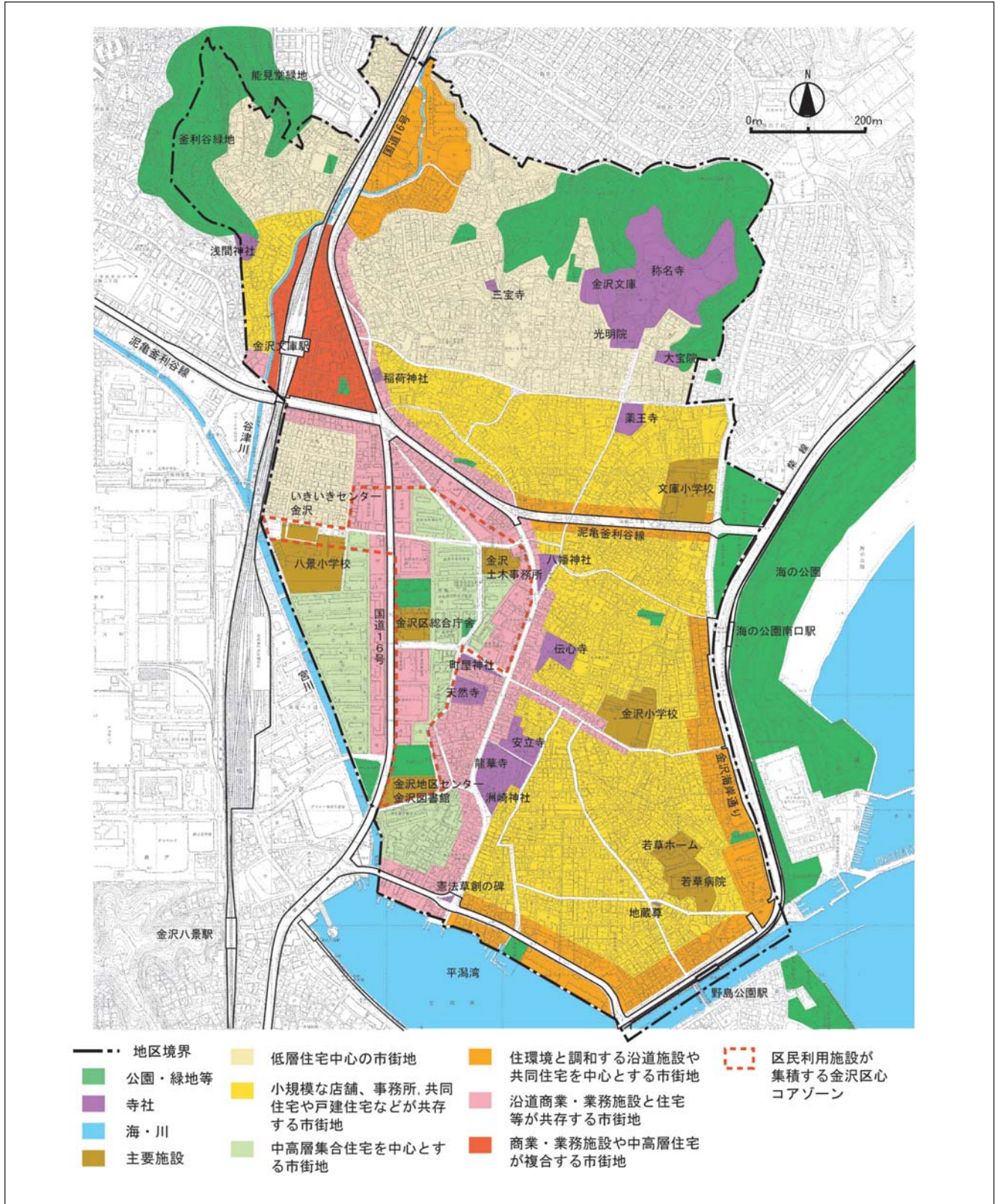


3 - 2 . テーマ別まちづくりの方針

テーマ1 . 住環境・市街地整備の方針 目標：災害への備えを整えた安全に暮らせるまち

金沢文庫駅東側地区は、住宅などが建てこんだ密集市街地、金沢文庫駅前の商業・業務複合市街地、金沢区心コアゾーン、幹線道路の沿道市街地と大きく分けられます。特に、密集市街地では災害時の課題が多く、建物の建替えや狭あい道路拡幅を促進するなど住環境の改善を重点的に進める必要があります。

図3 - 2 . 住環境・市街地整備方針



方針 1 密集市街地の住環境改善

防災上課題のある密集市街地において、地域住民に対して防災情報や住環境の改善制度についての情報提供や意識啓発を行います。

地域住民と協働して、密集市街地の住環境の改善に向けた防災まちづくり計画を作成し、地区内で特に重要な狭あい道路の拡幅整備や倒壊の危険性のある住宅の耐震改修を促進するなど地域の防災性の向上と住環境の改善を図ります。

地域住民の合意形成に応じて密集住宅市街地整備促進事業や建替えを促進する地区計画（ ）の導入を進めます。

方針 2 地区の拠点となる施設の整備

金沢文庫駅東口周辺では、市街地再開発事業等により、商業・業務・サービス機能の再整備や都市型住宅の建設を進め、地区の拠点として相応しい活力と魅力ある駅前施設の整備を進めます。

金沢文庫駅前商店街においては、商店街と行政の協力の下、空き店舗のコミュニティ施設活用、街並み景観整備などを推進していきます。

市民利用施設が集中する金沢区心コアゾーンでは、既存施設のリニューアルや遊休施設の活用など、今後のまちづくりに寄与する新しい拠点施設の整備を進めます。

方針 3 後背住宅地との調和のとれた地区幹線道路沿道の街並み誘導

国道16号や金沢歴史の道沿道では、近隣の住環境に配慮した建物の用途・形態を誘導します。

未整備の都市計画道路泥亀釜利谷線では、道路の整備に合わせて沿道利用について検討します。

地区計画や建築協定（ ）などによって定められる地元主体のルールづくりを進めます。地域住民による都市計画提案制度（ ）の活用を促進します。

方針 4 良好な地域環境を踏まえた市街地の形成

称名寺市民の森や六国峠などの自然の緑を背景に、落ち着いた良好な住環境が形成されている谷津町、金沢町の低層住宅地では、今後の住環境や街並み景観の維持・保全に向けて地区計画や緑地協定（ ）などによるルールを定めます。

戸建住宅や共同住宅、小規模な店舗、事務所などが共存する寺前町、町屋町、洲崎町、平潟町などでは、建物共同化や狭あい道路の拡幅等の住環境の改善を進めます。

泥亀一丁目住宅地など中高層住宅等の立地が可能な地域では、低層住宅が立地している地域があります。これらについては、それぞれの地域の実状及び地域住民の意向に基づいて、高層建築や大規模開発に対する地区計画や建築協定によるルールを定めます。

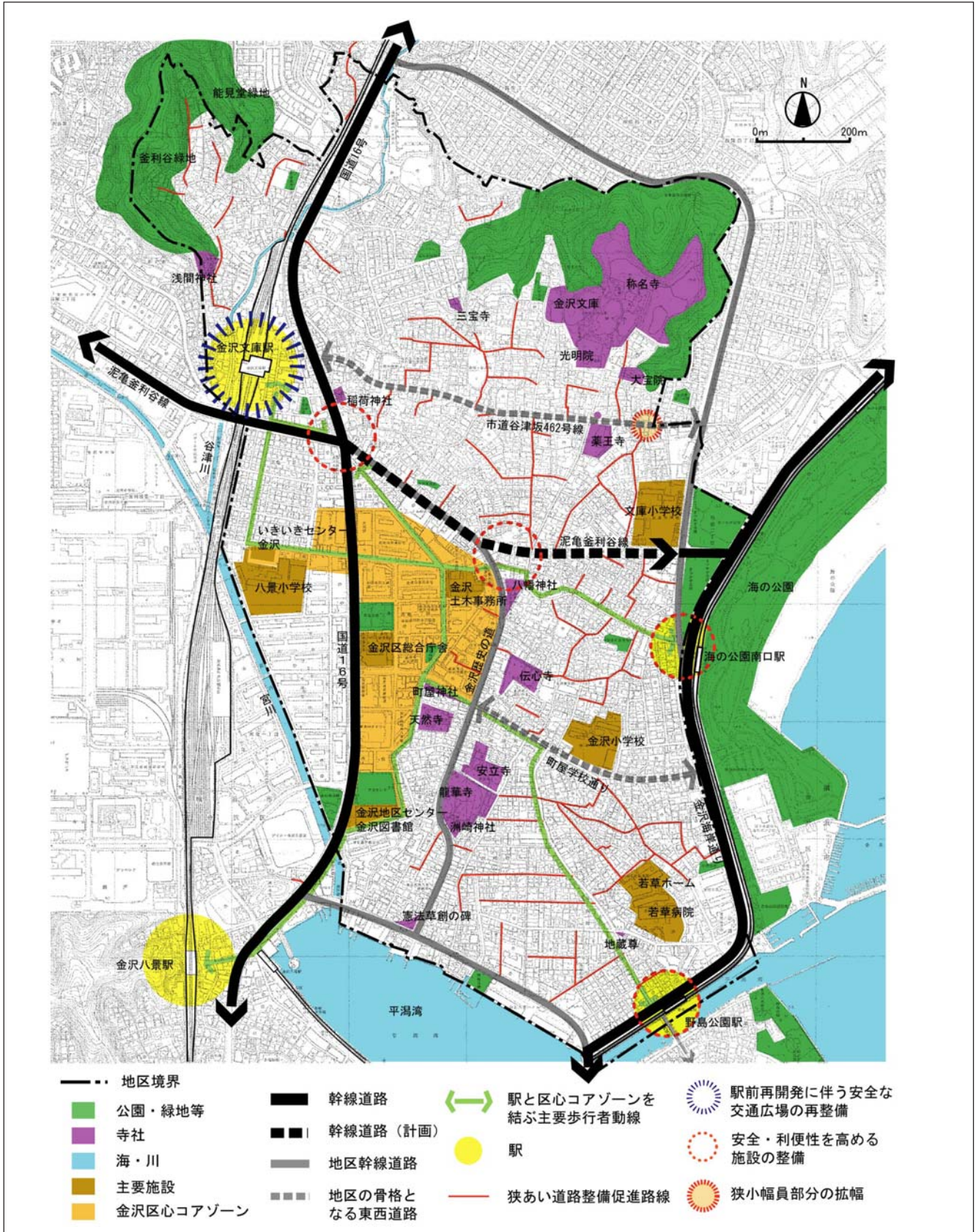


住環境や街並み景観の維持・保全に向けて地区計画や緑地協定などによるルールを定めます。

テーマ2 . 道路・交通環境整備の方針 目標：歩行者にやさしいバリアフリー環境の充実を進めるまち

国道16号・金沢海岸通りの幹線道路を結ぶ地区の骨格となる東西方向の道路の整備を進めるとともに、狭い道路整備促進路線の拡幅整備、安全・快適な交通広場や歩道、道路横断施設等の歩行者にやさしい交通環境の整備・改善を進めます。

図3-3 . 道路・交通整備方針



方針1 地区の骨格となる東西道路の整備

市道谷津坂462号線（称名寺前道路）は、特に幅員が部分的に狭くなっている称名寺赤門～柴町区間を中心に、道路幅員の拡幅を進め、安全な東西方向の歩行者動線を整えます。幹線道路ネットワークの形成に加えて、地区の骨格となる東西道路の機能も担うよう、都市計画道路泥亀釜利谷線の整備を進めます。

町屋学校通りは、沿道の壁面後退により、金沢小学校への通学や商店街への買物等のための歩行者空間の充実を進めます。

方針2 狭あい道路の拡幅

狭あい道路拡幅整備事業において、狭あい道路整備促進路線に定められている住宅地内の狭あい道路を中心に道路の拡幅を図ります。

道路後退部分について、道路と一体的に機能するよう整備を進めます。

地域住民が中心となって、道路拡幅に向けた2項道路の後退および後退後の道路環境についてのまちのルールづくりを進めます。

方針3 安全・快適な歩道の整備

歩行者等が安心して移動できるバリアフリーの「歩行ネットワーク」の形成を図ります。切り下げ部の歩道の勾配がきつい金沢歴史の道の歩道では、歩車道間の段差を低減して歩行者にやさしい歩道の整備を進めます。

交差点の歩道と車道が擦り付く部分では、段差を解消し、車椅子でも安全に通行できるよう改善を進めます。

電線共同溝の整備などにより電線類を地中化し、街並みや自然的環境との調和を図り、安全・快適な歩行者空間を形成します。

方針4 地区の回遊性・利便性・安全性を高める施設の整備・改善

君ヶ崎交差点や都市計画道路泥亀釜利谷線と金沢歴史の道の交差点では、道路の整備に合わせて使いやすく安全に道路を横断できる施設の整備を進めます。

野島公園駅周辺では、駅利用者の利便性・安全性を高めるため、駅と地域を結ぶ道路において、歩行者優先のコミュニティ道路（ ）化を進めます。

歩行者等が安心して移動できるスペースを確保するため、また、野島公園駅、野島（野島公園）方面への回遊性を高めるために、野島橋の架け替えを進めます。

金沢文庫駅や野島公園駅、海の公園南口駅におけるエレベーターの設置を進めます。

方針5 金沢文庫駅周辺における福祉のまちづくりの推進

福祉のまちづくり条例（ ）に基づき、重点推進地区に指定するなど、地域住民、事業者との協働により、誰もが生活しやすいまちづくりを推進します。

交通広場や駐輪場、国道16号まで安全にアクセスできる歩道等のバリアフリー環境の充実を進めます。

金沢文庫駅前商店街の商店入口の段差解消や入口の拡幅など、商店街におけるバリアフリー環境の充実を進めます。

方針6 地域住民と行政との協働による道路・交通環境の改善

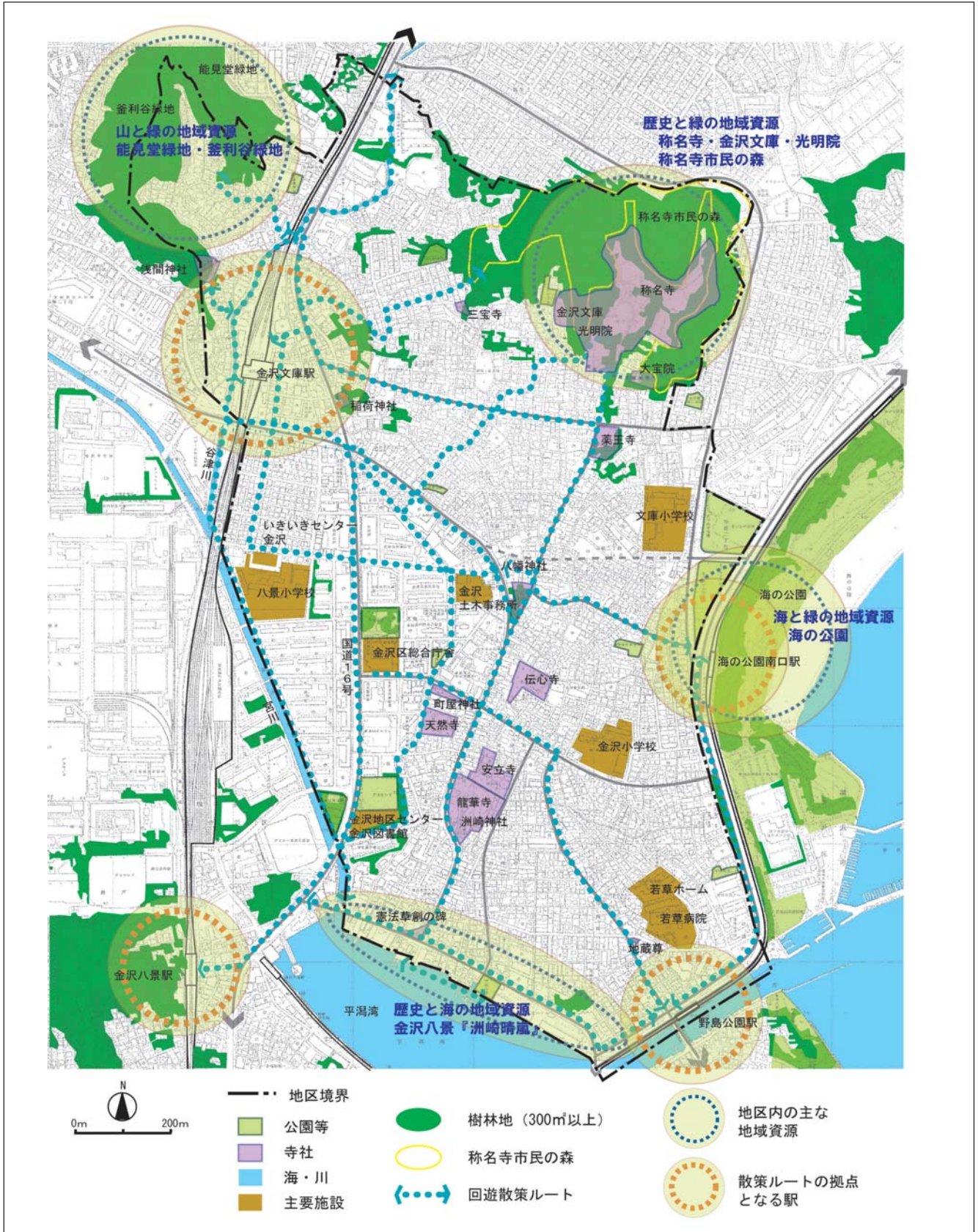
地域住民と行政の協働の下、地区内の実状を把握し、歩道の整備や歩行者を優先するゾーンの形成など、総合的な対策を進めます。

地域住民と行政が協力して、身近な道路の清掃や美化活動を行う取り組みを進めます。

テーマ3 水・緑・歴史資源整備の方針 目標：海・山・史跡 地域資源を大切にするまち

金沢文庫駅東側地区を古くから見守り続けてきた貴重な水・緑・歴史資源の保全活用を進めるとともに、地域資源の維持・管理に多くの人に関われる仕組みづくりと、より多くの人に広めるための地域資源の情報発信を進めます。

図3-4 水・緑・歴史資源（地域資源）整備方針



方針1 地域資源の地域住民への周知

地区内の歴史や、地域資源を広く知ってもらうため、周知の場をつくります。子ども達や若い世代の人達が、地域資源やまちの歴史に興味を持てるようにします。広報区版などを活用し、地域資源の紹介や説明などを継続的に区民に行います。

方針2 地域資源の保全・創出

地域に親しみ深い称名寺の市民の森を今後も保全活用していくための手法を考えます。住宅地の中においては、学校等の緑化や緑地協定等の地域の自主的なルールづくりにより、住宅地内の緑化を推進し、住宅地における緑の創出とネットワーク化を図ります。地区内に存在する歴史的価値の高い寺社などの建造物は、適切な保全を働きかけ、親しみやすい地域性の感じられる空間づくりを進めます。

方針3 地域資源の維持管理

地区内の歴史資源や走川プロムナードの緑、谷津川の水資源の清掃管理などを通して、地域コミュニティにより地域資源の維持・管理活動ができる人材育成と仕組みづくりを進めます。既に設置されているものも含めて、案内板やサインなどについて、新しい情報が速やかに反映されるように、適切な維持管理を行う仕組みづくりを進めます。

方針4 回遊散策ルートの整備

金沢文庫駅や海の公園南口駅、野島公園駅、いきいきセンター金沢等の市民利用施設や、地区内外の魅力資源（六国峠、称名寺、海の公園、野島公園など）を歩行者が安全で快適に見て周れる「地域資源回遊散策ルート」の整備を進めます。



谷津川



平潟湾（洲崎晴嵐）



釜利谷緑地入口



赤門通り

方針5 地域資源の情報発信

地元町内会や商店街などが中心となり、まちの魅力として地域内に存在する地域資源を活用したイベントを企画し、観光振興による地域の活性化を進めます。地域の歴史・自然資源を広く周知させるための地域資源案内板や、サインの設置、散策ルートマップの作成などを進めます。

